

## 雪害の実態

### (1) 冠雪害

冠雪害は林令が20～30年の、とくに形状比の高い林分で大発生する。

利用可能な林木が被害を受けるため、ダメージは大きい。

また、幼令林の倒伏や折れも、冠雪が原因になる場合が多い。



▶冠雪による幹折れ（石川）



▶冠雪による倒伏被害（秋田）



◀冠雪による幹折れ（滋賀）

## (2) 雪圧害

雪圧害には埋雪期間中の幹折れなどの被害に加えて、累積的な根元曲りや、幹曲りによる被害があり、これらの軽減のために、植栽以後の保育に要する経済負担は大きい。

▼幼令期のスギの幹折れ(新潟)



▶スギの根元曲り、幹曲り(新潟)



▶豪雪地のスギの根元割れ(山形)



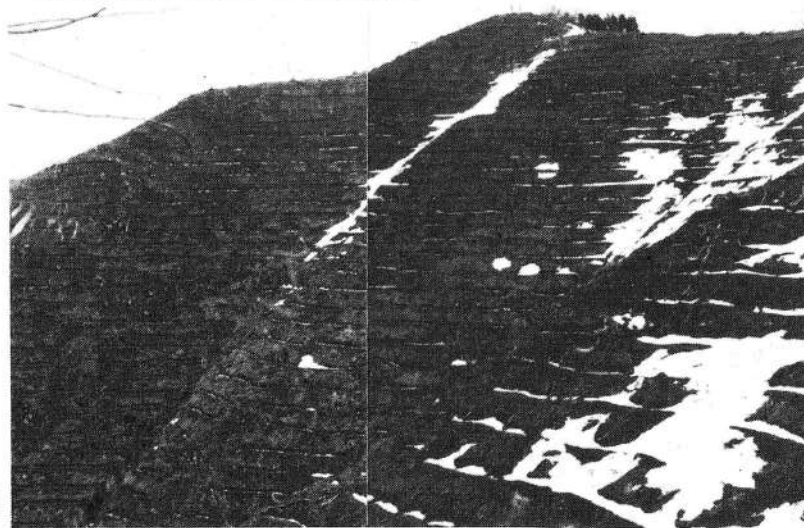
### (3) 積雪の移動による害

ザラメユキ化が早い地域の急斜地では、積雪の移動が大きく、なだれが発生したり、積雪の移動が不安定なところが多い。このような地域では、雪害が多発し、成林が難かしいので、階段の施工などによって、積雪の移動を安定化させることが必要である。



◀積雪の移動が不安定な斜面(新潟)

▼階段の施工による積雪の安定化(福井)



▶成林した階段造林地(福井)

